第７回（平成２８年度第１回）
キャリア教育推進懇話会協議記録

H28.7.12

〇日知屋東小では、昨年度１１月１日のオープンスクール・ＰＴＡバザーの日によのなか教室を実施した。保護者には好評であった。ただし、保護者は「キャリア教育」という言葉には耳慣れしていない。

〇ひむかジュニア運動はとても良い企画。活用をもっともっと拡大し、いろいろな年代が活躍できるといい。放送大学でも高齢の方の方が元気がいい。

〇学校の先生自身もよのなか先生に登録するとよいと当初から思っていた。

〇学校の先生の登録・活用も可能である。先生自身も一人一人キャリアが違う。教職以外にも社会貢献している教師もいる。

〇道徳や学級活動で、校長や教頭などがＧＴで入っている。給食時の放送で、様々な教師が語る取り組みもある。よのなか先生に登録して他校での活用はなかなか難しいかも。自校では十分活用できる。

〇小・中の次の段階での高校でどんな活用が必要か考えていきたい。高校生を核としたよのなか教室は、高校生の学びにつながる。後輩にすごいと言われさらに頑張り成長につながる。計画的な実施の定着が望ましい。

〇小中校連絡協議会では、高校の授業中に高校生を派遣することは躊躇もあるが、学びが大きいということで今後積極的に実施したいとのこと。

〇ふるさとを愛する心を育む学習をどう結び付けるかがよのなか教室では大切。教員だけではできない。道徳教育の全体計画の中によのなか教室を位置付けたり、キャリア教育の全体計画の中に郷土愛を位置付けたりする必要があるのではないか。（黒木）

〇子供の職業観を高めるだけでなくいかに日向に魅力を感じさせるかが大切。まず日向が好きになり日向で働くなのか、まず日向ではたらくようになり日向が好きになるなのか・・・。子供が小さいときから地元に対する意識を植え付けることで将来日向に戻ってくるようになるのではないか。ジュニア運動も地元で活躍するジュニアに子供たちがあこがれるようになるといい。福井県のように。

〇高校生が市内に就職しないが市内にも立派な企業が多い。市産業経済部としてはどうマッチングしていくか。高３のアンケートでは地元に残りたいが４０％だったので、もっと前から手を打つということで、高２の進学希望者も含めて、１５社の企業のプレゼンを聞く取り組みも行った。早い段階から日向市の素晴らしさを感じさせることが大切。課題はそのすばらしさの評価軸をどう設定するか。人口６万人の町の大人として、市職員が魅力を伝える訓練も必要である。行政の情報発信の一つとしてよのなか教室をみてもいいのではないか。

〇産業人材育成と学校教育がつながると心強い。
〇日向で働く大人のほとんどがよのなか先生を募集していることを知らないのではないか。募集のチラシに、現在のよのなか先生のコメントとして「難しくないよ！」等のメッセージを載せるといいのでは。いろんな年齢、いろんな職種のよのなか先生を戦略的に集める手立てを打っては。
〇団体として３年前からある中学校で人財というテーマで２コマ実施している。学校からのオファー開始と実施の期間が短かったり内容丸投げであったりするのが課題。
〇若いよのなか先生が体験を語れば若い人がさらに加入するのでは。
〇参観日によのなか教室を実施しているところがあってほっとした。一番は家庭だと思うから。若いお母さんたちに伝えたい。
〇職業安定所として新たにできることを提案していただければありがたい。
〇最終目標をどこに設定しているのか。
〇３年×３ステージで構想を考えている。
〇ジュニアは用語として定着するか？セカンドジュニア、まだまだジュニアなどのネーミングの検討の余地もある。キャリア教育という言葉も難しい。よのなか教育などの日本語にしてはどうか。